

## 2 予防的な指導援助の具体的対応（手引）

これは、予防的な指導援助をすすめるために、第1年次に導き出された「予防的な指導援助に必要とされる12の要点」における「基本的対応」を、学校現場において、より実践しやすいものに具体化したものである。

なお、以下に示す「対応例」の中の☆印は、『昭和63年3月発行の研究紀要第73号』を意味する。

### (1) 指導援助者の姿勢

予防的な指導援助を図るためには、指導援助者自身の生き方・考え方などの人間性や姿勢が大切である。

基本的対応	具体的対応	対 応 例
(1) 未だ問題行動にす動防る。	① 子供一人ひとりの健全な成長を心から願う。	○ 「この子は○○の長所を持っていると思う」「この子には明るい未来があると思う」のように考えて接する。
	② 問題行動の予防に力を注ぐ。	○ 「○○は問題行動に走らないと思う」「○○は問題行動を起こさないと信ずる」と考えて接するなど、一人ひとりの子供の健全な成長に常に関心を払う。
(2) 師する相談としての対教応	① 人間的な温かさを子供に向ける。 ② 子供の気持ちを理解する。 ③ 相談したことを口外しない。	○ 子供の行動を建設的に評価し、母性的なかかわりの中で、時には父性的な接し方もする。 ・ 厳しさの中の温かさ、優しさの中の力強さ ○ 急急に教師の価値観を押しつけようとせず、子供の心の動きに耳を傾ける。 ・ 「うーん…… どうして○○なの？」  詳しくは、☆P88(1)参照

### (2) 子供についての理解

子供の問題にいち早く気づくためには、子供の発達過程や心理的な特徴など、子供についての理解が必要である。

基本的対応	具体的対応	対 応 例
(1) 理解子供について	① 子供の発達過程とその特徴を理解する。 ア. 知的発達を理解する。 イ. 身体発達を理解する。 ウ. 心理的発達を理解する。	○ 基本的な発達心理についての理解の場を持つ。 ・ 校内研修会、校内事例研究会、保護者懇談会での話題等 ○ 発達段階の特徴を理解する。 ・ 反抗期、ギャングエイジ、第二次性徴期、性意識、自我の発達、自己一致等 ○ 養護教諭はもちろん、同学年や校種別（小・中・高）の先生方とも情報交換をする。 ・ 「最近の保健室の様子はどうですか……」
	② 現代の子供の特徴を理解する。	○ 各種資料・アンケートやふれあいの機会から、現代の子供像をとらえる。
(2) 子供個人について理解する。	① 性格・行動を理解する。	○ 生活の様子から、言葉づかい、服装、基本的な生活習慣等の変化を見ていく。 ○ 性格検査（YG検査等）を実施し、共に考えていく。 ・ 「おとなしいタイプのようにだけど、自分としてはどうかな？」
	② 対人関係を理解する。 ア. 友達との関係を見る。 イ. 教師との関係を見る。	○ 生活の様子から、人との交流の仕方を見る。 ・ ソシオメトリック・テスト等の活用 ・ 教師との接し方
	③ 家庭環境を理解する。	○ 「お父さんとは、どんなお話をしているの」等、さりげない日常会話をしていく。 ○ 日記等から、厳格、放任、過干渉等の親子のかかわりを見ていく。 ○ 家庭訪問、家庭環境調査等から、親子関係、家族構成、養育態度等を理解する。
	④ 知能や学習状況を理解する。	○ 学習態度（忘れ物、発言、自主学習、集中力等）に気をつける。 ・ 「○○君、さっきの発表はなかなかよかったよ」 ○ 教科担任や部活動顧問の先生から情報を得る。 ・ 「先生の授業で、○○さんの様子はどうですか」 ・ 「○○君は、部活動をしぶっているようなんですけど……」 ○ 知能検査、学力検査や学習の様子について調べる。 ・ アンダーアチーバーではないか、等
	⑤ 気持ちや考えを理解する。	○ 日記や作文などから、気持ちの変化をとらえる。